

# 員 業 績

フリガナ	オオモリ エイコ				
氏 名	大森 映子				
学 歴					
年 月	事 項				
昭和 49(1974)年 3月	日本女子大学文学部卒業（文学士）				
昭和 49(1974)年 4月	お茶の水女子大学大学院修士課程人文科学研究科入学				
昭和 52(1977)年 3月	お茶の水女子大学大学院修士課程人文科学研究科修了（文学修士）				
昭和 52(1977)年 4月	お茶の水女子大学大学院博士課程人文科学研究科入学				
昭和 57(1982)年 10月	お茶の水女子大学大学院博士課程人文科学研究科単位取得退学				
職 歴					
年 月	事 項				
昭和 57(1982)年 10月	お茶の水女子大学大学院人間文化研究科 助手（昭和 60(1985)年 3月まで）				
昭和 60(1985)年 10月	立教大学文学部 非常勤講師（平成 1(1989)年 3月まで）				
昭和 61(1986)年 4月	日本女子大学文学部 非常勤講師（平成 1(1989)年 3月まで）				
昭和 62(1987)年 4月	お茶の水女子大学文教育学部 非常勤講師（平成 1(1989)年 3月まで）				
平成 3(1991)年 4月	湘南国際女子短期大学国際教養学科 助教授（平成 12(2000)年 3月まで）				
平成 12(2000)年 4月	湘南国際女子短期大学国際教養学科 教授（平成 19(2007)年 3月まで）				
平成 4(1992)年 4月	東京女子大学文理学部 及び 大学院 非常勤講師（平成 20(2008)年 3月まで）				
平成 5(1993)年 4月	日本女子大学文学部 非常勤講師（現在に至るまで）				
平成 12(2000)年 4月	上智大学文学部 非常勤講師（平成 14(2002)年 3月まで）				
平成 19(2007)年 4月	多摩大学経営情報学部 教授（現在に至るまで）				
平成 20(2008)年 3月	早稲田大学文学院 人文科学研究科 非常勤講師（平成 22(2010)年 3月まで）				
学 会 及 び 社 会 に お け る 活 動 等					
現在所属している学会	歴史学研究会、日本史研究会、岡山藩研究会				

賞 罰	
年 月	事 項
	なし

研究分野		研究内容のキーワード		
日本近世史		大名相続、仮養子、岡山藩		
教育上の能力に関する事項				
事項		年月日		概要
職務上の実績に関する事項				
事項		年月日		概要
1 資格、免許 中学校社会科教諭一級普通免許 高等学校社会科教諭一級普通免許,		1974年3月日		
研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表の 年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概要
(著書)				
(著書) 岡山県史 第6巻	共著	1984年 11月	山陽出版社	岡山藩通史編「近世」のうち、近世前期の幕藩関係の項目を担当(第3章4節のうち、429-450頁)。元禄期の検地問題を取り上げ、幕藩の権限の問題を軸に、検地の実態を概観した。(編集:朝尾直弘、執筆者:谷口澄夫、人見彰彦、田中誠二、藤井学、大森映子他)
鎌倉市史	共著	1990年 3月	吉川弘文館	江戸時代に、鎌倉地域に設置された旗本領の特質に関する記述を担当(第1編2章、121~161頁)。元禄期の問題を中心に、旗本領の設定の経緯を追い、幕末に至るまでの変遷を概観した。(監修:児玉幸多、執筆:大口勇次郎、圭室文雄、内海孝、大森映子他)
日本史史話2 近世	共著	1993年 8月	山川出版社	江戸時代における史話を収録。江戸時代中期頃の政治的・社会的・文化的なエピソードを執筆(92項目中21項目担当)。(編集:大口勇次郎、五味文彦、執筆:井上薫、内海孝、大森映子、沼田哲、針谷武志、山本博文)

寒川町史 第6巻	共著	1998年 11月	寒川町	寒川町史「通史編」のうち、近世部分を分担執筆。とくに相模国高座郡における領主の変遷と特質に関する部分を担当（第3部1章2節、371-401頁）。（監修：児玉幸多、執筆：大口勇次郎、圭室文雄、渡辺尚志、大森映子他）
元禄期の幕政と大名たち	単著	1999年 10月	日本放送出版	NHK文化セミナーの副読本。五代将軍徳川綱吉の政治姿勢や諸政策について検討。また元禄期特有の問題として赤穂事件や生類憐みの令などを素材として、元禄期の社会的価値観や特質について解き明かす。
お家相続	単著	2004年 8月	角川書店	江戸時代における大名の相続問題について分析。家の存続のために、幕府へ無届けの相続事例や身代わり、年齢操作などがあることを明らかにした上で、相続をめぐる幕藩関係を考える。
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の 著 者 別	発行又 は 発表の 年 月	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概 要
(学術論文)				
幕藩制確立期における岡山藩文教政策	単著	1974年 11月	『史艸』15号	17世紀後半における岡山藩の文教政策について考察。文教政策を積極的に押し進めた意味を、藩政の諸問題と関連づけながら構造的に検討し、イデオロギー統制の側面があることを論じた。

大名課役と幕藩関係一元禄12年備後福山の幕領検地一	単著	1978年11月	歴史学研究 1978年度別冊 のち、『論集幕藩体制史』第1期第1巻 (藤野保編) に再録 (雄山閣)	元禄期に岡山藩が担当した備後福山の幕領検地を素材として、役の遂行が幕府に対する奉公として位置づけられていたことを指摘。あわせて課役をめぐる幕府と藩との権限について分析を試みた。
備後福山領検地をめぐる政治過程	単著	1981年3月	『史学雑誌』90-3	元禄12年に、岡山藩が幕府に命じられて実施した備後福山幕領の検地をめぐる幕藩関係について検討。検地への動員が軍役と同様の性格をもっていたことを明らかにし、あわせて幕藩間交渉の内実が非公式のルートを通じて行われていたことを指摘した。
元禄期に於ける備讃国境争論一石島一件に関する岡山藩史料の分析を中心に一	単著	1982年11月	『史艸』15号	瀬戸内海の小島(石島)の帰属をめぐり、元禄年間に備前(岡山)と讃岐(香川)との間で争われた争論を取り上げる。表向きは領民間の争論として争われながらも、内実は藩権力が深く関わっていた実態を明らかにした。
本郷沢右衛門考一近世中期岡山藩における新規雇用法臣の性格一	単著	1983年9月	『お茶の水史学』26/27 合併号	18世紀に岡山藩に新規に召し抱えられた藩士本郷沢右衛門の来歴を検討。史料の分析から、沢右衛門が幕府代官の手代という前歴をもっていたことを明らかにし、あわせて藩士としての沢右衛門の役割について言及した。
「栗山上書」の成立年代をめぐって	単著	1993年3月	『湘南国際女子短期大学紀要』創刊号	近世中期の儒学者柴野栗山が幕府に上呈したとされる上書について、その成立年代を検討。上書は従来寛政期の著作とされてきたが、内容的にいくつかの矛盾があることを指摘し、宝暦期の著作である可能性を指摘した。
享保期における備讃国境争論一大槌島・大曾瀬争論史料を中心に一	単著	1994年11月	『史艸』35号	瀬戸内海の無人島(大槌島)の帰属と周辺漁場の権利をめぐる享保年間の争論について検討。領民間争論として争われた本件に、岡山・高松双方の藩権力が深く介在していた事実を指摘し、実質的に領主間争論としての側面があることを論証した。
杉山善左衛門略歴一岡山藩における新規雇用法臣の性格一	単著	1994年3月	『湘南国際女子短期大学紀要』2号	元禄年間に岡山藩に召し抱えられた藩士杉山善左衛門の来歴を検討。幕府勘定方諸役人との人脈を軸として幕藩間交渉の内実を担った実態を検証。このような人物の存在が微妙な幕藩間の関係を支える重要な結節点であったことを論証した。

「石島一件」をめぐる幕府の審問過程一元禄二年訴訟の場合一	单著	1995年11月	『湘南国際女子短期大学紀要』3号	備讃国境の島（石島）の帰属と周辺海域の漁業権をめぐる争論について、幕府評定所に出廷した領民の報告をもとに、当時の幕府評定所における民事訴訟の実態を検討。評定所における審問の実態や裁判のあり方を紹介する。
訴訟からみた幕藩関係一備讃国境争論を中心に一	单著	1996年3月	『新しい近世史』第一巻 山本博文編 新人物往来社	17～18世紀における岡山藩と周辺地域との境界争論を総体的に取り上げる。それぞれの経緯を明らかにするとともに、時代的な相違について検討を試みた。
大名の離婚をめぐる岡山藩池田継政の場合一	单著	1997年2月	『湘南国際女子短期大学紀要』4号	大名の離婚とその政治的影響について検討。離婚をめぐる藩同士の関係、あるいは幕府との関係や手続きなど、とくにその政治的側面に注目。政治的関係へ波及していく経緯を明らかにした。
岡山藩池田家における婚姻事例一分家との比較を中心として一	单著	1998年2月	『湘南国際女子短期大学紀要』5号	岡山藩池田家を本家とする池田一族の系譜をてがかりとして、本家・分家大名・分家旗本・分家家臣など、一族女子の婚姻問題について数量的な分析を試みる。
備中生坂藩の相続問題一「公辺内分」の相続をめぐる一	单著	1998年7月	『日本歴史』602号	18世紀後半、岡山藩の分家大名である生坂池田家において幕府への正式な届け出を行わずに当主の身代わりをたてた事例を紹介（公辺内分の相続）。あわせて幕府側がそれを黙認した可能性があることを指摘し、その背景について検討を試みた。
幕府旗本の公的年齢と相続事情一池田頼功の場合一	单著	1999年2月	『湘南国際女子短期大学紀要』6号	江戸時代の大名や旗本の年齢操作の問題を検討。本稿では実年齢と公的年齢の差が8歳に及ぶ事例に注目して、その背景に公にできない相続事情があったことを明らかにし、年齢操作と相続の問題との関連について指摘した。
備中鴨方藩の相続問題一文政期の「公辺内分」の相続をめぐる一	单著	1999年10月	『日本近世国家の諸相』西村圭子編 東京堂出版	19世紀前半、岡山藩の分家大名鴨方池田家において、当主の入れ替えを行った事例を紹介。また同様の「公辺内分」相続の事例を抽出し、その背景に幕府の相続原則の維持と大名家の断絶の回避があったことを指摘した。
大名家における後継者決定過程一池田継政の場合一	单著	2000年2月	『湘南国際女子短期大学紀要』7号	大名家における後継者選択の過程と相続とに対する意識について検討。岡山藩の事例を取り上げ、具体的な経緯をたどりながら、幕府の相続原則が後継者選択に微妙な影響を与えていることを指摘。

大名相続における年齢制限をめぐって	単著	2001年2月	『湘南国際女子短期大学紀要』8号	江戸時代、幕府が養子出願年齢に制約を加えていたことに注目し、数量的分析を試みる。実際には、養子に対する制約は徐々に緩和される傾向を示す一方、大名側の意識には、なお年齢的制約が重く受け止められていたことを指摘。
岡山藩池田家の相続事情—養子相続をめぐって—	単著	2001年4月	『女の社会史』大口勇次郎編 山川出版社	19世紀段階における岡山藩池田家の養子相続の実態を検討。幕府の相続原則、血縁的親疎、年齢的制約、大名当主としての家筋や格式など、大名家の後継者選択過程における具体的な諸条件を明らかにしながら大名家の相続意識を検討した。
萩藩毛利家の相続事情—養子相続と公的年齢—	単著	2002年2月	『湘南国際女子短期大学紀要』9号	毛利家の当主の中で、実年齢が公的年齢よりも若い事例に注目。この年齢操作の意味を、当時の毛利家の相続事情と家の存続問題から検討を試みた。
大名家における養子決定過程—宇和島藩伊達家史料の分析から—	単著	2002年10月	『日本近世国家の諸相Ⅱ』西村圭子先生追悼論集編集委員会編 東京堂出版	18世紀後半における大名家の養子事例を取り上げ、養子話の初発段階から確定に至るまでの経緯を紹介。養子選択の基準は、がどこにあったのかについて検討を試み、取組成立までの間に年齢や履歴の操作があったことを指摘した。
大名家における養子取組—岡山藩池田家史料の分析から—	単著	2003年2月	『湘南国際女子短期大学紀要』10号	18世紀末の大名家の養子事例をもとに、養子相続に反映された大名家の内情や家存続の意識について検討。養子手続きを辿りながら、ほとんど血縁的関係のない家から養子を迎えた背景について言及を試みた。
江戸時代における仮養子と相続—宇和島藩伊達家における仮養子問題を中心として—	単著	2004年2月	『湘南国際女子短期大学紀要』11号	江戸時代の仮養子制度の特質を明らかにするために、幕府と宇和島藩の交渉史料に注目。双方の思惑を明らかに、仮養子決定の過程をたどり、仮養子がどのように意識されていたのかについて検討した。
江戸時代における仮養子手続き—福岡藩黒田家の後継問題—	単著	2005年2月	『湘南国際女子短期大学紀要』12号	福岡藩黒田家の養子問題について検討。養子選択の上では本来血縁的親疎が重視されるべきだが、18世紀半ばの段階で、黒田家が血筋よりも幕府との縁戚関係を重視した事例について検討。その経緯と幕藩の思惑を明らかにした。

肥後人吉藩相良家における相続問題―「公辺内分」の身代り相続―	単著	2006年2月	『湘南国際女子短期大学紀要』13号	18世紀後半の相良家における身代わり相続について、その具体的経緯を紹介。相良家の史料を通して大名相続の特質を検討するとともに、公的系譜の操作の実態について言及した。
近世中期における急養子相続―池田護之進の相良家相続を中心に―	単著	2007年3月	『湘南国際女子短期大学紀要』14号	18世紀後半における相良家の相続状況を検討。血縁的にはほとんど無縁の後継者を選択せざるを得なかった相良家の実情を具体的に検討。また当時の幕府の相続原則との関係についても言及を試みた。
対馬藩宗家の身替わり相続―天明五年の内分相続―	単著	2007年3月	『対馬調査報告集』(2005～07年度科研費基盤研究(B)「藩世界と公儀」代表深谷克己)	天明5年(1785)対馬藩は当主の急死により家の断絶の危機に直面するが、身替わりをたてることで回避した。この一件をめぐる政治的背景と、幕府・藩双方の思惑、また他大名の相続問題との関連などについて検討した。
近世中期の仮養子制度―肥後人吉藩相良家の場合―	単著	2008年3月	『湘南国際女子短期大学紀要』15号	江戸時代の仮養子の特質を明らかにするために、肥後人吉藩の事例から、仮養子人選の経緯および過程を紹介。仮養子制度は大名家の安定的継承の上で不可欠である一方、その選択が必ずしも容易ではない側面を明らかにした。
備中鴨方藩の急養子相続―弘化四年の相続問題―	単著	2010年5月	『藩世界と近世社会』岡山藩研究会編 岩田書院	江戸時代後期における大名家の養子事例の分析を通して、相続問題をめぐる公的手続きと実態との間に乖離があることを具体的に検証。とくに大名当主の死亡時操作の背景にある政治的問題を明らかにした。
大名相続をめぐる分家と一門	単著	2010年11月	『〈江戸〉の人と身分3 権威と上昇願望』堀新・深谷克己編 吉川弘文館	江戸時代における大名家の一族結合の実態とその意味を考察。宗家を中心とした分家の大名や旗本、家老、家臣など血縁的一族の結びつきと、家の存廃に関わる相互干渉の実情を、とくに相続問題を軸に検討した。
対馬藩宗家の仮養子史料―近世中期の相続問題を中心に―	単著	2012年3月	『対馬・沖縄調査報告集』(2010～12年度科研費基盤研究(B)「藩世界と東アジア世界」代表紙屋敦之)	近世中期における対馬藩宗家における相続の実情を具体的に検討。貿易と外交を担う特殊な立場から、一定の「例外」的措置が認められながらも、可能な限り相続原則に抵触しない形が取られていたことを確認した。



大名相続における女性	単著	2012年7月	『歴史評論』747号	江戸時代の大家の養子相続において、女性を通じた血筋がどこまで意識されていたのかを具体的に検討。また養子決定過程における正室の立場、また嫡出に対する大家の意識についても言及した。
都城嶋津家と江戸幕府	単著	2012年12月	『宮崎調査報告集』(2010~12年度科研費基盤研究(B)「藩世界と東アジア世界」代表紙屋敦之)	嶋津家の家中において最大規模を誇る都城嶋津家を事例に、幕府と大家の陪臣との関係について、系譜史料の紹介を軸としながら考察を試みた。
江戸時代における大名相続と御目見	単著	2014年2月	多摩大学経営情報学部研究紀要18号	将軍への御目見は家督継承には不可欠な要件とされているが、実際にはこれを理由とする改易事例は確認できない。将軍と大名の関係を端的に象徴する御目見の意味を検討した。
【共同研究】多摩における地域特性の研究—歴史的背景からの検証—	単著	2014年2月	多摩大学経営情報学部研究紀要18号	共同研究として作業を進めてきた多摩地域の特質に関する研究の経過報告。 なお江戸時代の名主史料の翻刻を、「仮報告書」(別冊)として作成した。
近世前期における島津家の相続問題	単著	2014年3月	『鹿児島・対馬調査報告集』(2013年度早稲田大学特定課題研究助成費報告書 代表・紙屋敦之)	島津家の相続に関する史料を素材として、島津家の縁戚関係の特色を確認し、分家大名・旗本の少ないという特徴との関連を検討した。
富澤家文書における「鷹」関係資料	単著	2015年2月	多摩大学経営情報学部研究紀要19号	武蔵国多摩郡連光寺村の名主を勤めていた富澤家の文書の中から、「御鷹」をめぐる史料の紹介を中心に、江戸時代における関東農村の「御鷹」への意識を検討した。
【共同研究】「多摩」における地域特性の研究—歴史的背景からの検証—	単著	2015年2月	多摩大学経営情報学部研究紀要19号	共同研究として作業を進めてきた多摩地域の特性に関する研究の経過報告。今年度の成果として、多摩地域のイメージを話題とした座談会を開いた。(別冊)

【共同研究報告書】 国文学研究資料館所蔵・ 富澤家文書・廻状史料 (寛政年間分)	単著	2015年3月	多摩学研究会・報告書	・共同研究の一つとして、富澤家文書の廻状史料の翻刻を試みた。今回は、寛政期(4冊分)の翻刻を対象とした。
仮養子をめぐる本家と分家—萩藩と長門毛利家の事例—	単著	2016年2月	多摩大学経営情報学部 研究紀要20号	萩藩の分家大名である長府藩毛利元運が、帰国に際して指名した仮養子をめぐって、本家・分家間で交わされた交渉史料の紹介を軸として、分家に対する本家側の意識を明らかにすることを試みた。
【共同研究】多摩学資料室の位置づけと有効利用	共著	2016年2月	多摩大学経営情報学部 研究紀要20号	数年にわたって多摩地域に関連する文献資料の収集を図ってきた多摩学資料室の有効利用を目指し、具体的な目録作成と整理方針を確立し、まとめた。
著書、学術論文等の名称	著者別 単共の	発行又は 発表の 年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
(その他)				